

令和6年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立矢口中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・多くの生徒が授業に対して積極的に取り組んでいる。特にALT やペアとの会話練習やスピーチの作成などに対しても意欲的であり、小学校での英語教育など早い時期から英語活動に触れてきた成果が表れているとよい。話す活動への積極性に比例して、聞く力も年々向上している。
- ・基礎的な分野での知識が定着しつつある。単語、短文などの反復を重ねることで少しずつ運用できる言語材料が増えてきた。今後も単語テストや教科書準拠のワークなどを用い、理解を深めていく。

(2) 課題

- ・長文やまとまった英文を読むことに慣れていない生徒が多い。教科書の構成が会話ベースになっているため、自分で手軽に読むことができるまとまった英文に出会えていないことが要因と考えられる。学んだ英文法を用いて、長文を読み、解析していくことが必要である。
- ・「なぜ英語を学ぶ必要があるのか」という子どもの疑問に対して、教える側が明確な答えをもちながら、新しい言語を学ぶことで自己の世界が広がる楽しさを受容的な雰囲気の中で伝えていくことで主体的な学びの姿勢が生まれてくると考える。あたたかい雰囲気の中で活発な会話が生まれていくよう支援したい。
- ・意欲的である書く力向上のため、さらに文表現を豊かにする熟語や助動詞の効果的な使い方について学ぶ必要がある。短文から、複文へと発展させることや場面に合わせた表現を用いていくことなど練習の量だけでなく質の向上が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	校内平均正答率は全国や区を超えており、8割に達している。聞くこと、読むこと、書くこと、どの技能も正答率8割を上回っており、基礎的な力、それを活用する力がついていることがうかがえる。問題内容別の正答率を見ると、日常会話の理解（聞く）、英文の完成（書く）が若干伸び悩んだ。既習事項がどのような場面、内容で使われるかを意識した活動を取り入れていきたい。	/	/
第2学年	校内平均正答率はおおよそ6割に達し、全国及	校内での正答率は8割を超えている。アルファ	/

	<p>び区の平均を上回った。特に基礎分野の正答率が高く、基本に忠実に地道に学習した成果が表れている。中でも語形、語法の知識・理解の値が高く、文法理解が定着していることが読み取れる。基礎に比べ活用分野の正答率は5割5分と若干伸び悩んだ。自分の考えについて記述したり、自分で答えを導き出したりする問題に苦手意識が見られ、学習に対する主体性と関連性があると思われる。</p>	<p>ベットの読みや書き取りは9割近い達成率であり、基礎の定着が読み取れる。また英文の読み書きも9割に達していることから「読む」「書く」の力が高いことがうかがえる。一方、日常会話の聞き取りは8割をきることもあり、耳で得た音が語句とつながらず会話場面が想像できていないと推測される。英語の音に触れる場面を多く設定し、4技能の円滑なつながりを形成したい。</p>	
第3学年	<p>校内での正答率は全国や区を越えており、平均で6割となっている。特にリスニングの内容理解や語彙の知識理解では9割を超え、リスニングの対話文の応用、語形・語法・語彙の知識理解、英文の読み取り、では8割を超えている。思考判断表現につながる分野の正答率が高くないため、応用力をつける必要がある。</p>	<p>校内での正答率は7割を超えている。特にリスニングの単文理解や、単語の並べ替えなどは8割を超える正答率である。基礎的問題の正答率はおおむね高く、辞書の使用が定着した成果が表れ、語彙の知識・理解についての値は8割以上の達成率であった。読むことについての正答率が若干低いいため、読解力をつける必要がある。</p>	<p>校内での正答率は8割を超えている分野もある。特にアルファベットの音や平易な単語の聞き取りについては9割近くの達成率である。反面、日常会話での英語特有の言い回しなどについての細かな知識が足りない。現状を維持しながら、さらに英文法の知識を定着させていく必要がある。</p>

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○アルファベットや単語の慣れ親しんだものの「聞くこと」「書くこと」「読むこと」のすべての項目で高い正答率を示している。</p> <p>○「聞くこと」において、アルファベットや単語の音声の聞き取りはできるが、身近な事柄のできることで、できな</p>	<p>○聞き取った対話や紹介内容の概要を聞き取る力がある。</p> <p>○英文を書く力は身につけているが、自分が伝えたい内容を正しく書く問題に少し正答率が下がっている様子が見られた。スピーチ等を通して、自分のことを発信する</p>	<p>○ペアでの会話活動やALTとの関わりでは、積極的に取り組む姿勢が顕著である。スピーチや演習等、与えられた課題への取り組みも前向きだが、少し丁寧さに欠ける生徒がいる。英語に苦手意識がある生徒でも丁寧に一生懸命活動する姿勢を身に付けさ</p>

いことの聞き分けができていない面が見受けられる。	力を養っていきたい。	せたい。
--------------------------	------------	------

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○「聞くこと」「読むこと」について、学習した知識をもとに概要を大まかに捉え、正しい選択肢を選ぶことができる。語形・語法の知識・理解については日頃の反復練習による知識の積み重ねが結果に表れている。一方、長い文章を読む経験が浅く、文の趣旨を読み取れていない。よって本文に対する簡単な設問にも正しく答えられない生徒が少なくない。	○「読むこと」について、必要な情報を把握したり代名詞が指す内容を明確に捉えたりするのが苦手である。読解力の低さと経験不足からくる想像性の未熟さが課題である。 ○「書くこと」について平易な英作文は間違いなく記述することができる。一方、説明を伴う英作文は正答率が低くなる。日頃から自分の考えを巡らせ、書いたり話したりしようと試みる姿が正答につながっている。	○対話文の応答や英文を完成させる等、パターン化された短答問題には意欲的に取り組む傾向にある。また自分の考えや意見を述べる記述問題も抵抗なく解答できる。一方、相手の立場や気持ちを推し量りながら提案をしたり、自分の意見を伝えるなど、相手がいると想定した記述問題には解答しようと思えない生徒がいる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○基礎的な分野においては7割近い正答率であり、語形・語法については理解しているが、語彙には若干弱さを感じる。 ○「聞く」活動や「読む」活動よりも「書く」活動の伸びが大きく、スピーチ原稿を作る際に辞書を使いながら文章を書くこと、自分の思いを表すことにためらいをもちたが強いことがわかる。	○語彙力に多少の乏しさは感じるが、その語彙を用いて英作文を作ることにおいては大きな伸びを感じる。内容を記述し、思いを伝えることに躊躇しない生徒が多く、そこに感化されて発表したいという気持ちが大きくなる傾向にある。 ○長文において、必要な情報を読みとって意見を述べることに関しては問題ないが、内容を理解し、その要点をとらえることに苦手意識がある。	○話す活動においては、ALTと会話したい、理解したいという気持ちが強く、また、ペア活動を多く行うことにより、話すことへの消極性は見られない。 ○振り返りを行うと、弱点を理解し、自分の間違いやすい傾向を理解している生徒が多い。また次への取り組みに対する対応を、自己分析を通して考えられる生徒も多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ALT を活用し自然な表現の	○正確な文型を定着させ、考	○スピーチや発表をとおり、

<p>英語に触れる機会を多く設けると共に、情報を正しく聞き取る演習問題に取り組む。</p> <p>○音読をとおし、正しい発音、アクセントを定着させる。</p> <p>○単語テスト、スペリングコンテストの実施。</p>	<p>えたことや思ったことが自然に英語で表現できるように会話場面を多く設ける。</p> <p>○教材に限らず、世界に関わる多くの素材に触れ興味や知識の幅を広げる。</p> <p>○教科書のテーマをもとに自分に置き換えて考え、相手に自分のことを伝える表現力を充実させる。</p>	<p>能動的に自己表現を行い、自分の考えや気持ちが伝わる喜びを感じる機会を多く設定する。</p> <p>○協同学習を継続し、周囲から刺激を得て思考する姿勢を育てる。</p> <p>○英語という言語の背景にある文化や慣習を学び、世界への興味関心を引き出す。</p>
--	--	---

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○コツコツと反復練習を継続させる。習得した基礎を土台とし、まとまった文を聞いたり読んだりする機会を多く作る。</p> <p>○分からない単語や文法があっても、文脈から状況を想像できるように、豊富な知識と世界に向けた好奇心を育てていく。他教科と連携した能動的学習にも力を入れる。</p>	<p>○長文を読む機会を多く作り、書き手の意図を読み取る練習を重ねる。世の中に対する関心を深め視野を広げるため、時事問題や異文化に関わる題材を積極的に授業に取り入れる。</p> <p>○スモールトピックから自分の考えを深め、相手に伝えるように整理し文章にする活動を日常的に行っていく。</p>	<p>○自他を認めるコミュニケーション活動を充実させる。自分の意見をアウトプットすることから始め、他者の意見をインプットして内面を豊かにする。英語が人とつながるためのツールであることを実感させ、その喜びをなるべく多く体験させる。</p> <p>○ALT を活用し、異文化を自然に取り入れたい。</p>

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○授業内で使用する単語や熟語、文法事項を増やし、自由に使えるように反復練習をすることで記憶の定着を図り、家庭学習へとつなげていく</p> <p>○ICTの観点からタブレットにおける英語コンテンツの使用を促す。自然な英語に触れると共に、様々な内容に関する語彙を増やす。「読む」という分野においても苦手意識を持たないように、会話する機会を増やしていく。</p>	<p>○普段の授業でも行っているペアでの会話を増やし、自然に質疑応答ができるような機会を作る。</p> <p>○長文においては、特に時事問題、SDGs、環境問題、人権問題など多岐に渡った文章に触れさせ、思考の幅を広げる。</p> <p>○さまざまな題材の英作文に取り組む。文法習得とともに、自分の思いを伝え、状況に対応する力を養う。</p>	<p>○ペア、グループでの活動を通し、日常的に使用する言語としての理解を深めていく。</p> <p>○さまざまな題材に対する興味を持たせ、それを表現する発想力を養い、使用することによって実践的な授業展開を行う。</p> <p>○そのためにも、英語にとどまらず自分の引き出しを多くするために、様々なことに興味関心を持たせ、いろいろな人との意見の交流を通して、自分自身の意見、考えを深めていく。</p>